

Scoop

2001年9月

アリオン/プレミオ

トヨタ

カーリーナ30年の歴史を受け継ぐ新世代4ドア アリオン直撃スクープ
洗練されたスタイリングを得て12月25日デビューか!?

トヨタを代表するファミリーセダンといえば、真っ先に思い浮かぶのがカローラだろう。00年のFMCではシャシーやパッケージングが大幅に見直され、先細りの危機から巧みに脱した感がある。そして、その流れを受け継いでワンクラス上の4ドア、カーリーナとコロナも年末に世代交代を果たすことが判明した。プレミオのサブネームを得た現行コロナは96年1月にデビューしたから、丸6年近くを経て、ようやく刷新される日を迎えるワケだ。

10月号でいち早く報じたとおり、今回のFMCでは両車のネーミングが変わるといったビッグニュースもあり、トヨタの意気込みに期待が高まる。約30年間にわたって使われてきたカーリーナは「アリオン」に、コロナもサブネーム「プレミオ」が“本名”となる。もちろん、内容も車名変更に引けを取らない充実ぶりで、スクープ班が独占入手した確定フォルムを見ても、やはり革新的なFMCが行われそうな予感がする。

まずは、下に掲載したカーリーナ改めアリオン（開発コード：297N、トヨタ店扱い）の外観デザインからチェックしていこう。全体的なフォルムはカローラ同様、ロングホイールベースと高めに設定された全高、そしてショート&ハイデッキで構成されていて居住性の良さがにじみ出ている。



[↑ zoom](#)

スクープ班が独占入手したアリオンの確定フォルム。のびやかなシルエットラインと高い全高により、カローラを超えるスタイリッシュセダンに仕上がる。もちろん、居住性も現行カーリーナを上回る。



[↑ zoom](#)

アリオンのリアビュー。丸いリフレクターを採用したコンビランプが走り去る後ろ姿を印象づけるだろう。切れ上がったウエストラインがサイドビューの特徴だ。

全長4550mm（現行カーリーナ比プラス55mm）×全幅1695mm（同＋0）×全高1475mm（同プラス65mm）のスリーサイズが示すように、ボディは若干大きくなり、ホイールベースも120mm延長されて2700mmに。これにより、キャビンも拡大されて前後乗員の間隔を表すカップルディスタンスは950mm（同プラス55mm）となり、後席の頭上スペースも10+ Lがる。新たに採用されるリアクライニングシートは15～20cmほど後方に倒れ、後席でもくつろげる注目装備だ。

フロントマスクでは横ルーバーを用いたラジエターグリルやワイド感あふれるバンパー内開口部、プリウスにも似たつり目ヘッドランプが個性的な表情を見せ、存在感をアピール。ボディ側面では後方でキックアップしたウエストラインが特徴的で、これまたプリウスにも見られるデザイン処理だ。そして、円筒状のランプとスポイラー風に処理されたトランクリッド後端が後続車にスマートな印象を与える。

搭載エンジンはすべて新世代ユニットに刷新され、動力性能、環境性能、燃費が向上する。いまのところ1NZ-F E型1.5L、1ZZ-F E型1.8L、1AZ-F S E型2LD-4直噴の3種類が起用される予定で、ディーゼル車はラインナップから消滅。1.5L車と1.8L車には4速ATが組み合わせられ、2L車にはオーパで採用済みのスーパーCVTが搭載されることもわかっている。また、1.8L車には4WDも設定され、積雪地ユーザーの注目を集めるだろう。ちなみに、1.5L車と1.8L車は「超-低排出ガス認定」を、2L車は「良-低排出ガス認定」をそれぞれ取得する見込みだ。

●現行カーリーナ



[↑ zoom](#)



[↑ zoom](#)

兄弟車プレミオはもっと端正だ

これらのメカ部分を共用するプレミオ（開発コード：296N）は、アリオンよりも高い年齢層をターゲットにする。そのため、外観にはメッキパーツが多用され、より高級感を演出。上下に太いメッキモールが配されるラジエターグリルは存在感にあふれ、ボンネットからバンパーへとつながるプレスラインと相まって押し出し感も強い。

さらに、ウエストラインやグリップタイプのドアハンドル、サイドプロテクションモール内にもメッキが使われ、きらびやかな雰囲気がかもし出される。リアのナンバープレート脇に置かれるテール&ストップランプは、どこことなく同じトヨペット店で販売されているプログレにも似ている。



[↑ zoom](#)

大きなメッキグリルを備え、アリオンよりも存在感が強いプレミオのフロントマスク。サイドプロテクションモールやドアハンドルにもメッキが使われる。



[↑ zoom](#)

ナンバープレート両脇にもテール&ストップランプが置かれ、ワイド感が強調されるプレミオのリアビュー。キレイな曲線を描くルーフラインからも高い居住性が予想できる。

グレード展開はシンプルにまとめられ、ユーザー側の選びやすさとメーカー側の高い生産効率が両立される。ディスチャージヘッドランプやプライバシーガラス、15インチアルミホイール、本革巻きステアリングホイールなどが装備されるスポーティモデルも用意され、若年ユーザーの獲得にも乗りだす。

「年内に魅力あるセダンをさらに発売して、セダン・ムーブメントを起こしていく」。張社長が宣言したとおり、アリオン／プレミオはカローラに続いて国内セダン市場に新風を吹き込むにちがいない。

●現行コロナ・プレミオ



[↑ zoom](#)



[↑ zoom](#)















